

地域女性活躍推進事業【北海道白老町】

総事業費	4,999 千円
交付金額	2,499 千円

地域の実情と課題

- ・少子高齢化社会の進展により、福祉や保育、育児分野の施策を重点化してきたため、不安や悩みを抱える女性に対する支援が希薄となっていた。
- ・さらにコロナ禍による自粛生活により、孤立化が進んだことから気軽に相談できる体制づくりや居場所づくりが求められる。

目的・目標

- ・相談できる居場所の提供(週2回)、
- ・移動サロンの実施(うち月2回)
- ・相談目標件数80件→実績件数85件
令和3年度に引き続き事業を実施したため、町民の認知度、浸透度も増したと考える。相談内容も多岐にわたり、ニーズも多いと感じ取れた。

事業の特徴

- 様々な困難・課題を抱える女性に対する支援に取り組む意欲のあるNPO法人ウテカンパへ委託し次の事業を実施した。
- ①困難・課題を抱える女性が気軽に相談できる居場所の提供
 - ②webやSNSでの相談体制の整備
 - ③町内各地区での移動サロンの実施
 - ④行政機関、学校、民生委員、社会福祉協議会、町内会等関係機関との連携による相談窓口の周知、情報交換、町内実態把握
 - ⑤上記期間との連携による生理用品の提供
 - ⑥地域コミュニティキーパーソンの養成講座の実施

連携団体

- ・白老町(生活環境課、健康福祉課、子育て支援課、学校教育課)
- ・白老町社会福祉協議会
- ・各町内会
- ・民生委員
- ・放課後デイmamaしらおい
- ・NPO法人お助けネット

事業の効果

- ・コロナ禍でも感染対策を実施しながら興味を持てるような講座等を開設することで、不安や悩みを抱える女性が気軽に相談できる体制・居場所、外に出やすいきっかけを作ることができた。
 - ・コロナ禍で人との関わりが希薄化していたが、講座に参加した女性の中には継続して参加し、再び社会とのつながりを持つことができた。
 - ・誰にも相談できずにいた女性の不安や悩みを解消することができた。
- ※数値目標: 相談件数80件→実績件数85件

今後の課題

- ・令和3年度事業(つながりサポート型)からの2年目の取組であり、様々なツールを使ったPRも功を奏し、町民に対する認知度が増してきたと考える。しかし、アフターコロナを見据えると、これまで以上に社会全体で女性が活躍できる体制づくりが必要であるが、本交付金制度がなくなった場合の財源確保が困難であり、事業継続ができなくなる。

事業の概要

白老町

業務委託

NPO法人ウテカンパ

SNS、新聞折込、広報による周知

行政機関、学校、民生委員、社会福祉協議会、町内会等
関係機関との連携による相談窓口の周知、情報交換、町
内実態把握

困難・課題を抱える
女性が気軽に相談で
きる居場所の提供
(各種講座、移動サロン)

webやSNSでの
相談体制の整備

学校等との連
携による生理
用品の提供

地域コミュニティ
キーパーソンの
養成講座の実施